

がんばった児童発表

平成二年度 六年 男児

十一月十日に、若浜小学校の創立二十年記念式典がありました。その日は朝からすごい雨で、雨の音で歌やかけ声が体育館にひびきわたるか心配でした。

ぼくは、式典で児童発表のよびかけの代表になりました。代表にえらばれたと聞いた時は、だいじょうぶかなあと、少し不安でしたが、

「代表にえらばれた以上はがんばるぞ。」と、心にちかいました。

一週間ぐらい前から、練習が始まりました。練習は、主に朝や放課後課後などの時間を使ってやりました。ぼくのほかに、各学年からえらばれてきている人がたくさんいました。みんな話すのが上手そうな人ばかりでした。なんだか、自分が代表で話すのが、また不安になってきました。が、とにかく自分の話す言葉をきちんと言えようがんばろうと思いました。

しかし初めのうちはなかなかうまくいかず、いつも先生に注意されていました。今度こそうまくいったぞ。」と、思っていました。

「はい、もう一回。」

「もっと ゆっくり、はっきり話さない。」などと、何度も何度も練習をくりかえしました。

「こんなんでも本当にだいじょうぶなのだろうか？。本番まで間に合うのだろうか？」と、いつも考えながらやっていました。

初めのころは、集会室で練習していましたが、今度は体育館で練習することになりました。どうしてだかわかりませんが、今まではあまり上手ではないな、と思いながら聞いていたみんなの発表が、とても上手に聞こえます。

『いつの間に、みんなうまくなったのだろうか。』と考えているうちに、自分の番になりました。ぼくは、できるだけ大きな声で、

「ねむい目をこすりながらがんばった陸上の朝練習。」と言いました。すると、友達のよしお君が、

「うまくなったね。」と、言ってくれました。ぼくは、その時、なんだかとてもうれしくなりました。毎日、同じことばかりやって、いやになったこともあったのだけれども、そのおかげで少しずつ上達していたんだなどと考えると、ちよつと自信を持ったし、練習にもいっそう身が入るようになりました。

さて、いよいよ本番の時間がやってきました。来ひんの方々やお客さんもたくさん集まり、とうとう式が始まりました。

「いよいよ始まる……」とてもきんちようしてきましたが、練習してきた通りにやればいいんだと、心を落ち着けました。あつという間に児童発表になり、ぼくの番がだんだん近づいてきます。ぼくは、ますますきんちようしてきました。その時、練習で注意されたことを思い出しました。

「ゆっくり。しっかり。はっきり」とうとうぼくの番になりました。

「ねむい目をこすりながらがんばった陸上の朝練習。」

ぼくは、練習の時よりもずっとうまく言えたような気がしました。

児童発表が全部おわり、体育館中から、せい大なはく手がきました。その時、まるでヒーローになったような、最高の気分でした。がんばったかいがあったと思いました。

歌の方も雨に負けず、みんな大きな声で歌い、とてもよかったです。ぼくが若浜小学校に入学してから、今までで最高の歌声が、体育館にひびきわたりました。

みんなの心が一つになって、とてもすばらしい二十年記念式典でした。そして、

「若浜小学校、二十さいおめでとう。」